



自転車社会の環境改善を目指して No.9

「PORTLAND-Sunday Parkways」に見る町づくり

文

特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 理事
株式会社ビタミン・ジャパン 代表取締役

齋藤 勝

事務局：〒166-0011 東京都杉並区梅里 2-6-3
TEL 080-3918-2932 FAX 03-6316-9170
URL <http://www.cyclists.jp/>

自転車を大切に町づくりをしている都市として思い浮かぶのは、アムステルダムやコペンハーゲンなどヨーロッパに多いが、アメリカにも自転車を交通体系の中に位置づけてLOHAS（健康で持続可能なライフスタイル）な町づくりを進めて発展している町がある。なかでもポートランドは、ひととき目立つ存在だ。

* * *

ポートランドの交通政策に関しては、古倉宗治氏が本誌連載で詳細を紹介しているので、そちらを参考にさせていただきたい。ここでは私自身がポートランドを訪問して感じた魅力をお伝えしたい。

サンディパークウェイに初参加

2010年6月末、ポートランド市恒例の自転車の祭典「サンディパークウェイ2010」を体験したく、日程を調整してポートランドを訪れた。案内してくれたのは、ポートランド州立大学スティーブ・ジョンソン博士とNPOの皆さん。

このイベントは年に4回、ポートランド市の東西南北を会場に開催されている。歩行者天国ならぬ「自転車天国」を設定し、自転車マニアはもちろん、子供やお年寄りまで思い思いの格好で自転車を楽しみ、公園やイベント会場では、初対面の人たち同士でも

一緒にゲームやスポーツ、ダンスを楽しむことが出来るイベントである。

このイベントには、市街地人口56万人のポートランドの周辺からの参加も含め毎回、約5万人が集まるといふから、いかに市民が毎年楽しみにしているかが理解できる。

また、当日はボランティアとして場内のサポーター役等に誰でも参加できる仕組みになっている。

私が参加した日は、多くの高校生や大学生と思える若者が、コースガイドやイベント会場のアシスタント役、小さな子供の相手をしたり、会場内の清掃などに汗を流していた。



(左上) スティーブ・ジョンソン博士と筆者
(右上) 2010年6月に開催された「サンディパークウェイ」のパンフレット表紙
(下) イベントで自転車を楽しむ子供の姿



(左) 2010年6月開催時の「イベントコースガイドマップ」
(右) イベントでのレクリエーション風景

日本でも、若者たちが災害地等でボランティア活動する姿をみると、ホッとされる様に、若者のはつらつとした姿は町に活気をもたらす重要な要因だということを感じた。

会場は、6～9マイル（約10km前後）の自動車の乗入れを禁止した「自転車専用道路」を設定し、午前11時の時報とともに専用道には自動車を一切入れないし、コース内に置かれてあった車も外に出すことは出来ないルールになっている。その警備には拳銃を下げた、地元のお巡りさんがあたっているという徹底ぶりだ。

コースに沿って幾つかの大きな公園があり、その中に数々のイベント会場があった。スポーツイベントからダンス、曲芸、子供も参加できるゲームなど盛りだくさんである。

また、音楽の盛んな町らしく市民の同好会によるコンサートやステージショーなど内容がバラエティに富み、一日いても飽きないほどだった。飲食できるショップもたくさんあり、



初夏の新鮮な空気と日差しの中で健康的な一日を過ごせて大満足だった。

このイベントには、多くの企業や団体がサポーターとして名を連ねているほか、多くの市民がボランティアとしても参加している。町ぐるみで、自転車を重要な交通手段としてとらえ、環境づくりの重要な位置に格付けして、普及と浸透に真剣に取り組んでいる姿勢が感じられた。

それは、「市民参加による持続可能コミュニティの育成」というスティーブ・ジョンソン博士ら、指導者の永年にわたるポートランドの着地点を見据えた地道な努力の結果、必然的に生まれたイベントであったことも理解できた。

2030年までに、総延長962マイルの自転車専用道を計画

国やオレゴン州の後押しで、ポートランド市は2010年には309マイル(497km)の自転車専用道を2030年には962マイル(1,548km)まで延長する計画を発表。

その実現には、自転車を利用している人はもちろん、利用していない人まで幅広い層の住民に理解され、計画の支持を取り付けることが必要で、このイベントはそういった意味でも重要な位置づけにあった。

日本では、自転車の利用者に対し「マナーが悪い」「交通ルールを守らない」「自転車は危険」「放置する」などのマイナスイメージが先行しているように思う。

本来、自転車が持つ「環境に優しい乗り物」「健康維持に有効」「手軽に目的地まで移動できる」などのメリットが打ち消されている日本

は、法律のみで規制しようという傾向がみられる。しかし、この町はイベントを通じて自転車に親しませ、子供にも大人にもルールやマナーの大切さを再教育したり、年配の方には安全走行の必要性を体感してもらうなど、積極的に安全走行空間造りに努力をしている。

スティーブ・ジョンソン博士によるとポートランド市は、再生可能エネルギーは全使用量の50%。通勤者の1/4は自転車と公共交通機関を利用するパーク&ライドで通勤し、毎日自転車を利用する通勤者は1万人に及ぶという。

また、ポートランド市は以下のことでベストシティとして選ばれている。

- ・ Best Bicycling City (Bicycling magazine)
- ・ Best Walking City (Prevention magazine)
- ・ Most Sustainable Policies (Sustain Lane)
- ・ Most Vegetarian Friendly (Vegetarian magazine)

このように評価されていることから、ポートランドに移り住む企業や人が多く、2030年には86万人の人口が300万人に達すると予測されている。

ポートランドの町は、高学歴で革新的な若き起業家に好まれ、彼らもまた「持続可能コミュニティ造り」の強力な支持層となっている。

また、自転車を根本的に優遇して行政で支える姿勢が顕著なため、町には自転車関連のビジネスも育っている。年商90億円を誇るカーゴバイクメーカー「メトロフイツ社」、ヘルメットで有名な「ナットケース社」、中堅バイクメーカーの「ブレイン・ナットケース社」「バニラバイシクル社」などの他、市内の至る所にバイクショップやレンタルショップが数多く点在している。

ここまで自転車関連のポートランド訪問記を書いてきたが、22の大学のキャンパスがあり、町には若者が多く活気にあふれているし、緑も多くバスでもライトレールでも移動に関しては便数が多く、不便を感じることもなく町が形成されていることを体感した。

最後に、もしポートランドに行く予定がおありなら、是非とも『サンディパークウェイ』の開催日に合わせて訪問することをおすすめしたい。

自転車は市内のレンタルショップで簡単にチャーターできる。今年のイベント日程は下記の通り。 **PP**

サンディパークウェイ2013	
East Portland Sunday Parkways	2013年5月12日(日) 11:00~16:00 7マイル(11.27km)
Northeast Portland Sunday Parkways	2013年6月23日(日) 11:00~16:00 8マイル(12.88km)
North Portland Sunday Parkways	2013年7月25日(日) 11:00~16:00 9.5マイル(15.3km)
Southeast Portland Sunday Parkways	2013年8月25日(日) 11:00~16:00 9マイル(14.5km)
Southwest Portland Sunday Parkways	2013年9月29日(日) 11:00~16:00 予定

「自転車検定」を始めました



インターネットで、いつでも受験できる「自転車検定」サイトを設けました。無料のお試し検定も行っています。自転車活用推進研究会のホームページ<<http://www.cyclists.jp/>>からどうぞ。